

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.51

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

平成 19 年度 日本英学史学会 中国・四国支部 総会
第 1 回 (通算 56 回) 研究例会 [支部発足 30 周年記念例会] の報告



平成 19 年度 中国・四国支部 第 1 回 (通算 56 回) 研究例会 [支部発足 30 周年記念例会] は、以下の通り開催され、盛会裏に終了いたしました (参加者 25 名)。

ご参加くださいました会員の方々、ならびに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

日時 : 2007 年 5 月 26 日 (土) 12:00 受付開始 ~
会場 : 比治山大学 10 号館 4 階 第 5 講義室
(〒732-8509 広島市東区牛田新町 4-1-1
TEL : 082-229-0121)

支部総会 (12:30-13:00)

前年度活動報告、会計報告、会計監査報告、
役員改選、会則改定、新年度活動計画

研究例会プログラム

開会行事 (13:00-13:20)

開会挨拶 竹中龍範 (支部長・香川大学)
会場校挨拶 高橋 超 (比治山大学学長)

特別講話 (13:20-13:50)

「支部創設の頃を振り返って」

講師 定宗一宏 (初代支部長・
広島文化短期大学名誉教授)

司会 竹中龍範 (香川大学)

講演 (14:00-15:00)

「Dickens, *American Notes* について」

講師 伊藤弘之 (熊本大学名誉教授)
司会 風呂 鞏 (比治山大学)

シンポジウム (15:10-17:00)

「これからの英学史研究」

パネリスト

隈 慶秀 (福岡県立明善高等学校)

中外俊宏 (広島県立広島高等学校)

馬本 勉 (県立広島大学)

コーディネーター

田中正道 (兵庫教育大学・広島大学
名誉教授)

コメンテーター

寺田芳徳 (比治山大学名誉教授)

松村幹男 (広島大学名誉教授)

閉会行事 (17:00-17:20)

閉会挨拶 副支部長 田村一郎 (広島大学
名誉教授)

写真撮影

懇親会 (18:30-20:30)

広島駅ビル内 銀座ライオンにて

定宗一宏先生の特別講話

「支部創設の頃を振り返って」



定宗一宏先生

30年前の支部創設時より長年にわたって支部長を務められた定宗一宏先生より、「支部創設の頃を振り返って」と題する講話を伺った。

まず、支部創設の契機となった1977(昭和52)年のファリントン氏(英印図書館副館長)の来広と、その1年後に定宗先生がロンドン・トラファルガー広場近くの英印図書館を訪ね、膨大な史料に感銘を受けられたことについて紹介された。先生の訪英は、文部省教員海外派遣団の団長として、モロッコほか各国への歴訪の一環であった。モロッコでは文部大臣から「日本の文明開化の成功の理由は何か」と尋ねられ、先生は「寺子屋、私塾、藩校などの教育の

充実、さらに蘭学、洋学の発達によるところが大きい」と答えられたという。

次に広島支部発足の経緯について、『英学会報』第1号に松村幹男先生が記された記録を引用しながらお話くださった。広島においては、昭和11年の櫻井役『日本英語教育史稿』、昭和12年の定宗数松『日本英学物語』など、早くから英学史研究の動きが見られた。日本英学史学会の創設が1964(昭和39)年。その後、いよいよ支部創設の機運が盛り上がった1977(昭和52)年夏、松村先生や寺田先生とともに発起人会を立ち上げられたという。そしてその年の11月10日、設立総会が開催された。また、2年後には日本英学史学会全国大会を広島で開催。定宗先生は、支部長として会を運営された当時を振り返られた。

最後に、先生ご所蔵の広島外国語学校関係資料に基づくご研究に言及され、ご専門の歴史学研究についても紹介された。

先生の講話を伺って、発足時を支えてくださった先生方の力強さを改めて感じた。支部の歴史の重みを大切にしつつ、学会のこれからを守っていかなくては、との思いを新たにされた。(馬本 勉)

伊藤弘之先生の講演

「Charles Dickens, *American Notes* (1842)
について」



伊藤弘之先生

伊藤弘之先生(熊本大学名誉教授)は広島文理科大学をご卒業後、熊本商科大学、鹿児島大学、福岡女子大学、そして熊本大学と、1997年ご退官になるまで人生の大半を九州地方の大学にご勤務された。専門は英語学、近代散文の英語である。恩師榊井迪夫先生(元広島大学教授で平成4年他界)の遺志を受け継ぎ、未完の岩波文庫『完訳カンタベリー物語』(チャーサー作・榊井迪夫訳)上・中・下(全三冊)を1995年に完成させられた。上巻の付記に伊藤先

生による説明文がある。

平成12年には、恩師山本忠雄博士の滞英日記・英語英文学論稿を含む『山本忠雄博士遺稿集』(溪水社)を編集された。

広島文理科大学の二大巨峰、榊井迪夫、および山本忠雄両先生を知らぬ者も今では多い。学問の尊さを直接両先生から継承された伊藤先生の案内を介して、両先生の偉業に接することが出来るのは幸せである。

また2005年には、伊藤先生は下笠徳次、隈元貞広両氏の協力のもとに、ディケンズ著『アメリカ紀行』上・下(岩波文庫)を訳出された。本邦初訳であり、訳業の経緯と苦労については、下巻に解説がある(30頁)。

伊藤先生は『英語青年』(2006・6月号)誌上に「訳者と読むこの一冊」と題する文を載せられた。その中で、ディケンズの英語は copious language (copious とは「情報がぎっしりと詰まった」との意味であろうか?)だと実感した旨を書いておられる。講演の中でも、Double-meaning, Deviation, Syntactic iconicity の三点からディケンズの表現を分析され、これを裏付けられた。見事な翻訳を完成された方の貴重な評言として、ディケンズの英語理解へのキーがまた一つ学べた気がする。

『アメリカ紀行』の中に書かれた記述としては、奴隷制度、ヘレンケラーよりも以前にあったマサチューセッツ州の身体障害者の社会福祉施設、紳士と呼ばれる人たちの唾吐き行為、国際著作権問題などについて興味深いお話を拝聴することができた。

お忙しい中、充実したご講演をご準備下さり、学問への地道で緻密な研究姿勢を披露して下さった伊藤先生に心からお礼を申し上げます。学者とはこうありがたいものだ教えて頂きました。有り難う御座いました。(風呂 鞞)

シンポジウム 「これからの英学史研究」



シンポジウムを終えて

21世紀の英学史研究の担い手である3名のパネリストによるシンポジウムは、各パネリストの「得意技」が存分に発揮され、刺激的な「知」の交換の場となった。「地域」の英学史研究のこれからの研究課題ならびに研究の在り方について三者三様のアプローチが紹介され、フロアーとの討論を通じ、また、2名のベテラン・コメンテーターによる含蓄に富んだ「水先案内」によって、シンポジウムは白熱した議論の場となった。

英学史研究においてそもそも「地域」とは何か、また、「地域」をどう認識し、それをどのように位置づけるのか、また、一次資料の収集方法と収集した資料の「共有」の在り方、さらには、IT化時代に望まれる情報検索サイト構築の提言等、まさに「これからの英学史研究」の方向に照準を当てた充実した議論が展開された。

コーディネーターの大役を無事終えてホッとしている次第である。(田中正道)



田中正道先生

本当にお世話になりました。とても価値ある例会でした。今後の研究のヒントをたくさんいただけたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(隈 慶秀)

こちらの準備が不十分で大変ご迷惑をおかけしましたが、参加の先生方からの貴重なご意見をいただき大変感謝しております。学問とは何か、研究とは何か大変刺激的な1日でした。英学史の流れの中でいかに地域の英学史を位置づけるのかということの大切さがわかりました。呉地域には海軍兵学校や技手養成所を始めとして、多くの英学史のテーマが存在することを教えていただき、研究テーマが広がっていきそうです。馬本先生や隈先生の地域への英学史の思いや真摯な研究手法には感動しました。今後は初心にかえって基礎文献を丁寧に読み、地域の英学史の資料を発掘し、皆さんと共有できればと考えております。今後よろしくお願いいたします。

(中舛俊宏)



隈 慶秀先生



中舛俊宏先生



馬本 勉先生

隈先生、中舛先生とともにシンポジウムの席に着かせて頂いたことは、本当に嬉しく、とても貴重な機会となりました。福岡、呉のいずれもが、英学と関係が深いことに感銘を覚えました。また、それを追いつけておられる両先生の探求姿勢から多くのことを学びました。

私は広島英語教育史について、松村先生、寺田先生をはじめとする会員の先生方のご研究成果を踏まえつつ、新たな資料を加えたウェブサイト立ち上げの試みを紹介しました。コメンテーターをお引き受けくださいました寺田、松村両先生から、たいへん示唆に富むご助言の数々を賜りました。心よりお礼申し上げます。また、コーディネーターの田中先生の鋭いご指摘、フロアの先生方からの貴重な質問やご意見にも感謝申し上げます。英学史の知見をまとめる上で、時間軸とともに、地域や社会状況をみる視点が重要であることを痛感いたしました。

今後、私たちよりもさらに若い世代を巻き込みながら、英学史研究を一層盛り上げていく努力を続けたいと思います。ありがとうございました。

(馬本 勉)

料を拝見させていただきありがとうございました。中でも「日本英学物語」は是非入手したいと思います。

(伊藤先生) 翻訳の秘話を聞かせていただきとても勉強になりました。

(隈先生、中舛先生) 高等学校で教鞭を取られながら地域に根ざした英学史研究を続けておられ本当にすばらしいです。先人達から学んだ英知をいかに現代に生かしていくか、「生きた」英学史研究のお手本だと思います。とても勇気付けられました。

(馬本先生) 「歴史」、「インターネット」、「地域」を結ぶべく「情報検索サイト」の構築という素晴らしい研究にひたすら感動です。「誰でも」英学史研究に取り組める裾野を広げていかなければならない、という馬本先生の信念を実行されたものだと思います。しっかりと活用させていただきたいと思います。ただ、誰でも、どこでも情報を得ることができる(であろう)素晴らしいシステムではありますが、情報公開の範囲を限定していかないとさまざまな危険もでてくるのではないかと思います。今後、「情報検索サイト」が充実していくことを期待しています。

(Rainbow)



寺田芳徳先生



松村幹男先生

参加者より

(定宗先生) 先生方の英学へ対する熱意と支部創設のご苦勞をお聞きしながら、先生方が必死に守ってこられた「英学の灯」を絶やさず後世に伝えていかなければならないと感じました。また、貴重な資

料を拝見させていただきありがとうございました。中でも「日本英学物語」は是非入手したいと思います。

中国・四国支部発足 30 周年記念例会を、英学史研究の香り漂う比治山大学(広島市)で無事開催でき、安堵致しております。特に、シンポジウムでの歴史研究と集合知 (collective intelligence) については、非常に興味深く聞かせていただきました。刺激を受け、遅ればせながら、Surowiecki, J. (2004) *The Wisdom of Crowds* (London: ABACUS) を批判的に読み始めた次第です。会を通して、先生方の支部例会に対する熱き想い (life-long passion)、英学史に対する真摯な探究心 (disinterested pursuit)、そして、研究経験に基づく叡智 (scientific expertise) に少しでも触れることができたことを誇りに思いますとともに、次回例会も盛会でありますことを心よりお祈り申し上げます。

(能登原祥之)

中国・四国支部ニューズ

平成19年度第1回役員会

5月26日(土)の支部総会に先立ち、午前10時半より役員会を開催しました(出席者8名)。前年度会務報告・会計報告・会計監査報告、平成19・20年度役員選出、会則の一部改定、今年度の行事計画について審議を行いました。(詳細は以下の総会報告を参照)

平成19年度支部総会

5月26日(土)12時半より、議長として中舛俊宏会員を選出し今年度の支部総会を行いました。議事内容は以下の通り。

平成18年度活動報告

事務局より昨年度の活動について報告。内容は、(1)支部総会、(2)第1回研究例会(広島)、(3)第2回研究例会(高松)、(4)『英学史論叢』第9号の発行、(5)『ニューズレター』No.46~No.49の発行、(6)役員会の開催(第1回、第2回)、の6項目です。詳細は『英学史論叢』第10号をご覧ください。

平成18年度会計報告

平成18年度 会計報告

[収入]	
繰越金	- 2,121
預金利子	3
補助金	14,000
紀要販売	1,500
年会費(49口)	147,000
収入合計	160,382 円
[支出]	
通信費	36,160
印刷費	86,121
会議費	10,700
講師謝礼	20,000
雑費	13,132
支出合計	146,113 円
[次年度繰越金]	14,269 円

以上、ご報告申し上げます。

平成19年4月30日 会計 松岡博信[㊞]

平成18年度会計監査報告

本学会の会計を、収入並びに支出に関して、それぞれ関係書類、及び領収書等により監査いたしました。その結果、全て適正、正確に会計処理ができていたことを確認いたしました。

以上報告いたします。

平成19年5月24日 会計監査 山本勇三[㊞]

鉄森令子[㊞]

平成19・20年度役員

支 部 長：竹中龍範

副支部長：田中正道・田村一郎・田村道美

顧問(相談役)：定宗一宏・寺田芳徳・松村幹男

顧 問：五十嵐二郎・小泉 凡

理 事：上杉 進・小篠敏明・河口 昭・築道和明・

能登原昭夫・深澤清治・風呂 鞏・

松岡博信(会計担当)・村端五郎

事務局長：馬本 勉(紀要担当兼務)

会計監査：鉄森令子・山本勇三

支部会則の改定

支部会則の一部改定が行われました。変更点は次の通りです。(下線部は変更・追加部分)

第5条 本会に次の役員を置く。

1 支 部 長	1 名
2 副支部長	若干名
3 顧 問	若干名
4 理 事	若干名
5 事務局長	1 名
6 幹 事	若干名
7 会計監査	2 名

第7条

2 会務・活動の円滑化をはかるために、事務局を設け、事務局長1名、幹事若干名を置く。事務局長は学会事務に関わる業務を統括する。それぞれ任期は2年とし、再任を妨げない。

今年度の行事計画

1) 研究例会

第1回 平成19年5月26日(土)(予定通り終了)

・広島市・比治山大学

・例会当日、役員会および支部総会を開催

第2回 平成19年12月8日(土)

・山口県で開催予定

・例会当日、役員会を開催予定

2) 支部研究紀要

『英學史論叢』第10号を発行(予定通り発行・配布済)

3) ニューズレター

例年通り、以下の予定で発行する。

- ・No.50(平成19年4月)・No.51(平成19年7月)
- ・No.52(平成19年10月)・No.53(平成20年1月)

事務局よりお知らせとお願い

紀要、名簿について

研究紀要『英學史論叢』第10号、および『2007年度会員名簿』を皆様にお届けいたしました。お気づきの点がございましたら、事務局までお知らせください。なお、2005年度、2006年度の2ヵ年度連続で会費未納の方への郵便物は一時的に停止しております。2ヵ年度会費未納の場合は自然退会となりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

会費の納入について

すでに多数の会員の皆様より今年度の会費(一般3,000円、学生2,000円)をご納入頂いております。ご協力に感謝申し上げます。これからお振込みの方は下記口座までよろしく申し上げます。

(口座番号) 01360-9-43877
(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

例会発表者募集

今年度第2回研究例会(12月8日(土) 山口市・山口大学で開催予定)の発表者を募集します。研究発表(口頭発表30分・質疑応答20分・計50分)をご希望の方は、9月末までに事務局へご連絡ください。

日本英学史学会全国大会について

日本英学史学会第44回全国大会は2007年10月20日(土)~22日(月)、桃山学院大学(大阪府和泉市)にて開催されます。

10月20日(土)12時30分受付、

特別講演(大谷泰照氏) 総会、懇親会

10月21日(日)研究発表(午前・午後)

10月22日(月)史跡見学

全国大会への参加、日本英学史学会(本部)への入会に関するお問い合わせは支部事務局まで。日本英学史学会(本部)の会員登録は、中国・四国支部への入会とは別に手続きが必要です(入会金2,000円、年会費5,000円)

ニューズレター原稿募集

英学史にまつわる「エッセイ」「研究メモ」「読書ノート」などの原稿をお寄せください。いずれも400~800字程度。電子メールまたはワープロ印字原稿を事務局までお送りください。次号以降のニューズレターに掲載させていただきます。

ニューズレター広告の募集

ニューズレター1ページ(A4)の4分の1サイズの広告を募集します。ご自身の著書等、英学史に関わる広告を奮ってお寄せください。広告料は4号分のニューズレター掲載で5,000円です。なお、本ニューズレターは、毎号印刷版80部を発行しています。また、ウェブサイト上で広く世界に公開しています。

会員異動

退会(敬称略) 小野 章 中村浩路

広島英学史の周辺(17)

戦時の歴史を振り返る夏。さまざまなメディアを通じて「あの頃」が再現されるたびに、今のこの平和の尊さを思います。原爆ドームは広島が「誇る」遺産なのか、という議論がありました。そもそも世界遺産とは誰が何を誇るものなのか、考えさせられました。

ときの為政者の強大な権力を背景に文化的な発展が成し遂げられ、形として残る。人間の創造性や技術の高さを示しているという点で、私たち人類の誇りと呼べるものも多いでしょう。ただ一方で、その影で流された血や涙はどれほどだったのか。すべての文化遺産が、万人の幸福の中で完成されたものかどうか。「誇っているの?」と問うべき世界遺産は、ドームだけではないのかも知れません。記録的な猛暑が続いています。どうか皆様ご自愛ください。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No.51

2007年8月20日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74-1725(直通)

e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ: <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877

(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部